

桃山学院教育大学(以下「本学」という。)は、学則に定める教育目的を達成するために、3ポリシーを定めています。そのうち、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)とカリキュラムポリシー(教育課程編成実施の方針)を以下に掲載します。

「桃山学院教育大学学則 第1条(目的)」

桃山学院教育大学(以下「本学」という。)は、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいた神への畏敬と人間の尊厳を理念とし、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、グローバルな視野と豊かな教養を身につけた世界の市民として、地域社会及び国際社会に貢献できる人材を育成し、人類の福祉と人間文化の発展に寄与することを目的とする。

桃山学院教育大学 人間教育学部 人間教育学科

01 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し専門分野に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。

02 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

教員・社会人としての資質・能力を確実に修得できるよう、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目として4年間の学修を目標とした教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と段階を追った研究を、チューターによって支援していく。

1. 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として置く。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
2. 教養科目には、教育者として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うことを目標として置く。過去および現代の社会についての学び、倫理観や人の心についての学び、科学的な世界観についての学び、および日本の伝統的な文化や精神についての学び等、多様な講座を設ける。

3. 専門基礎科目には、幼児児童生徒理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目等、教育の専門科目を学習するための基礎となる科目群を置いて、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。

4. 専門科目には、教職に関する科目、教科に関する科目、保育士に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、養護に関する科目、キャリア形成に関する科目等において、教育者としての専門的な力量の育成を目標とする。

5. 将来を見据えたキャリア形成と教育者としての自覚の形成を図るために、インターンシップ、教育実習、保育実習、介護等体験実習等を実習科目として置く。併せて国際的な広い視野を持てるよう海外インターンシップの機会も設ける。

また、本学の各課程におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーは次のとおり定めています。

幼児教育課程

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し保育・幼児教育に関する専門的知識・技能並びに実践力・指導力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観・保育観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学びの3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性・多様性・協働性）の基礎を育成できる保育者ならびに教員の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、保育・幼児教育に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって支援していく。

- (1) 基礎教育科目では、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標とする。
- (2) 教養科目では、幼児・保育領域に精通した保育者ならびに教員として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うことを目標とする。
- (3) 専門基礎科目には、子ども理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目や、保育および教育に関する専門科目を学習するための基礎となる科目群を置き、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。
- (4) 専門科目には、教職に関する科目、教科に関する科目、保育士養成に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、キャリア形成に関する科目等を置いて、保育者ならびに教員としての専門的な力量の育成を目標とする。
- (5) 将来を見据えたキャリア形成と保育者ならびに教員としての自覚の形成を図り、また実践的な学びを推進するために、インターンシップ、教育実習、保育実習、施設実習等の実習を伴う科目を置く。併せて国際的な広視野を持てるよう海外インターンシップや、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を高められるよう社会貢献やボランティアの関連科目を置く。

小学校教育課程

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し小学校教育に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切にして、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育んできたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、小学校教育及び国語教育・英語教育に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目では、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標とする。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
- (2) 教養科目には、小学校教育に精通した教育者・指導者として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うことを目標とする。過去および現代の社会についての学び、倫理観や人の心についての学び、科学的な世界観についての学び、および日本の伝統的な文化や精神についての学び等、多様な講座を設ける。
- (3) 専門基礎科目には、児童生徒理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目や、教育に関する専門科目を学習するための基礎となる科目群を置き、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。
- (4) 専門科目では、教職に関する科目、教科に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、キャリア形成に関する科目等を置いて、教員としての専門的な力量の育成を目標とする。
- (5) 将来を見据えたキャリア形成と教員としての自覚の形成を図るために、インターンシップ、介護等体験、教育実習等の実習を伴う科目を置く。併せて国際的な広い視野を持てるよう海外インターンシップや、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を高められるよう社会貢献やボランティアの関連科目を置く。

小学校教育課程における各コースの教育課程は以下のとおり編成する。

1. 小学校教育コース

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、小学校教育に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目として本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育の導入として、チュータークラスによる学修や、必要とされる基礎的知識や技能を修得させる。教養科目や専門基礎科目では、学習指導要領で定められた、小学校で習う学習内容を理解し、それを児童に習得、活用、探究させるための方法を身につけさせる科目を設定する。専門基礎科目では、児童理解、生徒指導、研究・研修体制づくり、保護者対応など教師として必要な資質・能力を確実に身につけることができるような科目を設定する。
- (2) 教養科目や専門基礎科目では、小学校の教員として求められる幅広い教養を身につけ、柔軟に思考したり、豊かな感受性と表現力を養ったりするための科目を設ける。専門科目においては、与えられた課題に対して主体的に学び、自分の学びを人と共有しながらより高い資質・能力を身につけようとする科目を設定する。その上で自ら課題を発見し、その課題を解決するために、主体的な行動をとり、仲間と協調しながら授業を一緒に創ろうとする姿勢を示すことができるような科目を設定する。
- (3) 生涯に亘って教師として学び続けることができるように、教師としてのライフデザインを構想しながら、学生が自ら学修計画を立て、主体的に学習に取り組むことができるような科目を設定する。そのために、2年間のチュータークラスでの学修と2年間のゼミ教育を行う。また、インターンシップや介護等体験、教育実習を通して、学校集団・学年集団・学級集団づくりなどを積極的に進め、主体的に学校経営に参画し、粘り強さと自己調整力を発揮しながら、自らの教師としての力量を磨くことに取り組もうとするようにさせる科目も設定する。自らの課題を発見、追究、探究し、解決できるように専門演習、卒業研究を置く。

2. 国語教育コース

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、国語教育に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目（小学校課程共通）では、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として科目を配置する。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
- (2) 教養科目や専門基礎科目では、小学校の教員として求められる幅広い教養を身につけ、柔軟に思考したり、豊かな感受性と表現力を養ったりするための科目を設ける。コースの必修として、「日本文学概論」、「大阪の文学」を配置する。専門科目では「日本語」、「文学」、「和文化」、「言語技術」等の各関連科目を配置する。これらを通し国語科教員としてのベースとなる①教育の基盤をなし、全教科で必要な言語力の育成、②初中教育を見通した学習の系統性を理解した指導力を育成、③「話す・聞く」「書く」「読む」各領域の学習・語彙の習得指導力を育成、を図る。具体的には、「日本語学概論」、「日本文学概論」、

「漢文学概論」(高等学校)等では指導に必要な基本的な知識・技能を習得する。さらに「国語科教育法(1、2)」では授業での指導技術の確実な育成を図る。

- (3) 時代をたくましく生き抜く力を育成する教員として①実践的指導力の養成②分析的・批判的な思考力及び判断力とそれに基づいた論理的な表現力を育成、を図る。そのため「日本語学演習1」、「日本語表現法(1、2)」、「言語技術論(1、2)」等を開講するとともに、多様な演習科目で一層の技量の向上を図る。また、学ぶ楽しさを生徒に実感させ自主的・主体的な学びを広げる指導力を育成するため、「日本文学史」、「大阪の文学」、「和文化演習(1、2)」等の科目で文学及び文化の幅の広さ、奥行きを学ぶ意義、楽しさを学生が実感できる科目を配置する。

3. 英語教育コース

教員・社会人としての資質・能力を確実に修得できるよう、学力の3要素(①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度)を育成できる教員養成の教育課程(小学校教育課程・英語教育コース)を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と段階を迫った研究を、チューターによって支援していく。

英語教育コースでは、以下の(1)～(3)の目標を達成できるように、相互に関連付けられた専門科目(英語科目・英語教育科目)を各年次に配置する。

- (1) 基礎教育科目(小学校課程共通)では、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として科目を配置する。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
- (2) 教養科目や専門基礎科目では、小学校の教員として求められる幅広い教養を身につけ、柔軟に思考したり、豊かな感受性と表現力を養ったりするための科目を設ける。専門科目として児童・生徒の英語指導に必要な英語力を育成するため「Learning and Teaching Grammar for Communication(1,2)」、「English for Communication」、「Literature in English 1」、「Writing and Oral Presentations 1」、「English Pronunciation Workshop」、「Interactive English(A1, A2, B)」など外国語教育の先行研究に基づく4技能統合型の英語演習科目を配置する。さらに児童・生徒に効果的・実践的な指導を行うために必要な専門知識と指導力・指導技術の獲得のため現代英語の文法や語法についての専門知識を獲得するため「Practical English Teaching Workshop(A, B)」、「English Linguistics Workshop(A, B)」、「第二言語習得論」、「英語科教育法(1,2,3,4)」などの演習科目や、模擬授業、テスト問題作成などの演習科目を配置する。
- (3) アクティブラーニングなど生きて働く学力を形成する指導力を持った教員を育成するため、予め設定されたテーマだけでなく、自らテーマ設定し調査、取りまとめを行い、調査結果と自分の考察をプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどの活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成する。そのため、専門科目では「Academic Listening and Reading(1,2)」、「Writing and Debate/Discussion(1,2)」などを配置する。さらに指導力のベースとして、また社会人の基礎的な力として、英語を通して様々な人々と内容豊かなコミュニケーションができるようにする。そのため日本文化・社会・教育・異文化間コミュニケーションなど様々な分野について、「広い視野で考える力」や「様々な問題に直面した際に適切な判断力・問題解決力」、「物事の本質を考え、自分の考えを体系的にまとめて表現・発信する力」、「自己理解と他者理解ができ、他者と協働する力」を向上させる。

健康・スポーツ教育課程

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し健康・スポーツ領域に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切にして、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、健康・スポーツ領域に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として置く。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
- (2) 教養科目には、健康・スポーツ領域に精通した教育者・指導者として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うことを目標として置く。過去および現代の社会についての学び、倫理観や人の心についての学び、科学的な世界観についての学び、および日本の伝統的な文化や精神についての学び等、多様な講座を設ける。
- (3) 専門基礎科目には、児童生徒理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目や、教育および健康・スポーツ領域に関する専門科目を学習するための基礎となる科目群を置き、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。
- (4) 専門科目には、教職に関する科目、教科に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、養護に関する科目、キャリア形成に関する科目等において、健康・スポーツ領域の教育者・指導者としての専門的な力量の育成を目標とする。
- (5) 将来を見据えたキャリア形成と健康・スポーツ領域の教育者・指導者としての自覚の形成を図るために、インターンシップ、介護等体験、教育実習等の実習を伴う科目を置く。併せて国際的な広い視野を持てる

よう海外インターンシップや、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を高められるよう社会貢献やボランティアの関連科目を置く。

健康・スポーツ教育課程における各コースの教育課程は、以下のとおり編成する。

1. スポーツ科学コース

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした、スポーツ科学に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要とされる基礎的知識や技能を修得するための科目を置く。また、教養科目や専門基礎科目には、スポーツを多角的視点から理解するための幅広い知識や技能を養うために、社会、人文、自然科学を含む多様な分野にわたる科目群を設定する。また、専門基礎科目にはスポーツ科学の教育に必要な知識を修得するための科目を配置し、専門科目には、スポーツの実技および教育・指導に必要な専門的知識や技能のほか、スポーツ科学に関連する諸分野の専門的知識や技能を修得するための科目を置く。
- (2) 教養科目や専門基礎科目には、スポーツ科学の教育者・指導者として求められる幅広い教養を身に付け、柔軟な思考や、豊かな感受性と表現力を養うための多様な科目を設ける。専門科目においてはスポーツ科学の諸分野における理論を学び、分析的・論理的思考にもとづく考察力を身に付け、スポーツ科学の教育者・指導者として必要とされる深い洞察や的確な判断ができる能力を養うための科目を配置する。
- (3) スポーツ科学を視野に入れた将来への展望のもと、学生が体系的な学修計画を立て、主体的に学習に取り組むことができるよう、4年間にわたる少人数によるゼミ教育を行う。また、キャリア形成とスポーツ科学の教育者・指導者としての自覚を形成するために、インターンシップ、介護等体験、教育実習等の実習を伴う科目を置く。併せて国際的な広い視野を持てるよう海外インターンシップや、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を高められるよう社会貢献やボランティアの関連科目を置く。また、総合科学の視点からスポーツをとらえ、自ら課題を発見し、解決することを学ぶ専門演習・卒業研究を配置する。

2. 学校保健コース

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる教員ならびに指導者の養成に向けて、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目の4年間にわたる学修を目標とした学校保健に関連する教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と確かなキャリア形成を基盤とした学びを、チューターによって保障していく。

- (1) 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要とされる基礎的知識や技能を習得するための科目を置く。また、本コースでは、その学びを活用し深化させ、幼児児童生徒の養護活動に関わる専門職に必要な、教育学、保健学、看護学、心理学、社会福祉学、医療等の知識と技能の修得を目指す。さらに、生涯を通じた成長発達並びに社会的存在の観点から幼児児童生徒を多面的に理解し、学校保健に関わる看護基礎技術と健康教育の実践的な方法を身につける。
- (2) 教養科目や専門基礎科目には、幼児児童生徒に受容的・応答的に関わる力を身につけ、発達段階に応じた個々のニーズや社会的・現代的な課題を把握するための科目を置く。また、それらの課題を効果的に解決しようとする思考力や、思考したことを表現する力と発信力を培うことができるように専門科目及び演習

習科目を中心に学外施設での実習を組み合わせて授業を行う。課題解決に向けては、子ども理解に努め、互いを認め合い多職種の人々と連繫的に対応できる資質を育成する。

- (3) 学校保健を視野に入れた進路の実現に向けて、学生が体系的な学修計画を立て、主体的に学習に取り組むことができるように 4 年間にわたる少人数によるゼミ教育を行う。また、インターンシップやキャリア演習、養護実習等を通して、協働性や人間性の涵養を図るよう指導するとともに、専門職を目指す者に求められる倫理観を養う。さらに、養護に関する専門科目では、幼児児童生徒の健康や権利を守ることができるように健康教育の実践的な方法の修得を通して、学び続ける熱意を有し、自律的に学ぼうとする態度を構築する。

続いて、本学の特別プログラムにおけるディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーは以下のとおり定めています。

特別支援教育プログラム

01 ディプロマポリシー（プログラム修了要件の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し専門分野に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した場合にプログラム修了とする。

1. 定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育んできたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。
4. 障がいのある児童生徒等のための体系的な知識や技能を身に付けてきたこと。障がいの特性を理解し、その状態に応じた指導力を養ってきたこと。インクルーシブ教育並びに特別支援教育の社会的意義についての自覚と実践者としての使命感を有していること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

障がいのある児童生徒等指導力を育成するために、知識の活用能力、批判的思考力、コミュニケーション力、問題解決力を高め、教員・社会人としての資質・能力を確実に修得し、学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できるプログラム（特別支援教育）を編成する。

1. 障がいのある児童生徒等の教育に必要な心理・生理・病理、特別な教育課程、障がいの状態に応じた指導方法、及びインクルーシブ教育に関する知識・技能を習得することを求める。その際、何を理解しているか、何ができるかを確かめつつ、習得した知識・技能が相互に関連付けられ、生きて働く知識・技能となるよう促す。
2. 障がいのある児童生徒等の教育においては、障がいの状態に応じて、臨機応変で柔軟な対応が求められる。そのため、理解していること・できることをどう使うかという力、また、未知の状況にも対応できる力やインクルーシブ教育のための力の育成を目指し、的確なアセスメントによる指導目標の設定、指導内容や指導方法の設定などを学ぶ。
3. インクルーシブ教育並びに特別支援教育に関わり、学びを教員としての人生や社会に生かそうとする態度を重視し、習得した知識・技能や思考力・判断力・表現力等を実感できるような学習活動を充実させていく。また、障がいの多様性を尊重する態度や感性、優しさ、思いやりなどを重視し、共生社会の実現に向けた実践ができるような力を育成する。

※本プログラムを修了するとともに、幼稚園教諭又は小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許状取得要件を満たすことにより、「特別支援学校教諭一種免許状」を取得することができる。

日本語教員養成プログラム

01 ディプロマポリシー（プログラム修了要件の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し日本語教育に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した場合にプログラム修了とする。

1. 定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。
4. 第二言語としての日本語を教えるために必要とされる体系的な知識や技能を身に付けてきたこと。文化多様性を理解し尊重する姿勢を有し、学習者の文化・社会的背景を尊重しつつ、教員と学習者とが相互に教え学び合う、コミュニケーション活動としての日本語教育を実践することができる能力を養ってきたこと。日本語教育の社会的意義についての自覚と、実践者としての使命感を持っていること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学力の3要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③主体的に学習に取り組む態度）を育成できる日本語教員の養成に向けて、「社会・文化・地域に関わる領域」、「教育に関わる領域」、「言語に関わる領域」の学修を目標としたプログラムを編成する。

1. 「社会・文化・地域に関わる領域」では、日本語教育の背景となる国際社会や日本の実情についての知識を身に付け、学習者が日本語を使って社会とつながる力を育てるための技能を修得する。また、言語と社会の関係や多文化共生の観点について学ぶことで、異なる文化を背景とする学習者に適切に接するための力を養う。
2. 「教育に関わる領域」では、言語習得の過程や異文化間の理解について学ぶことで言語教育やコミュニケーションのための知識と技能を修得する。また、日本語の教育方法や教育実践に関する科目を置き、演習や実習を通じて多様な学習者に対応するために必要な応用力を身に付ける。
3. 「言語に関わる領域」では、言語の構造を理解し、日本語に関する体系的知識を修得するための科目や、日本語によるコミュニケーション能力を高め、豊かな表現力を養うための科目を置く。

教育相談実践基礎プログラム

01 ディプロマポリシー（プログラム修了要件の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し教育相談実践基礎に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した場合にプログラム修了とする。

1. 定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。
4. 保育・学校教育現場における子どもの諸問題を理解し、課題解決に必要とされる体系的な知識や技能を身に付けてきたこと。すべての子どもを対象とした開発的・予防的な授業実践力と教育相談の実践基礎力を養ってきたこと。困難を抱えている子どもを早期発見し、チームで協働して支援・対応を行う使命感を持っていること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教員・社会人としての資質・能力を確実に修得でき、教育相談の実践基礎を養うプログラム（教育相談実践基礎）を編成する。

1. 保育・学校教育現場において、子どもの諸問題の未然防止、早期発見、課題解決に向けて支援・対応を行うため、免許必修科目の「教育相談」を核とし、「准学校心理士」資格取得に必要な科目、教育相談を充実させる領域横断的な科目を置き、教育相談の実践基礎に必要な専門的知識・技能を体系的に修得することを目標とする。
2. 修得した知識・技能を活用し、子どもの発達課題や心理的発達の現状を踏まえた開発的・予防的な授業や活動を計画し展開するため、また困難を抱える子どもの早期発見に努め、多面的にアセスメントし、チームで協働して最適な解決策を探りながら教育相談活動を展開するために必要な思考力・判断力・表現力等を養う。
3. 子どもの園・学校生活への適応や人格の成長を援助し幸福を実現するため、多様化・複雑化する子どもの諸問題や問題対応について学び続け、教育相談に主体的に取り組む態度を養うとともに、多様性を尊重し、保護者、教職員、各種専門家、地域の関係機関と連携し、チームで組織的な対応を行う協働性を養う。将来、心理教育的援助サービスを行う「学校心理士」資格取得をめざし、「教育相談コーディネーター」を担う教員となるための資質・能力の基盤を育む。

※本プログラムの修了要件を満たすことにより、（一社）学校心理士認定機構・日本学校心理士会認定「准学校心理士」資格を取得することができる。

部活動指導者養成プログラム

01 ディプロマポリシー（プログラム修了要件の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し部活動指導者養成に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した場合にプログラム修了とする。

1. 定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。
4. 学校教育活動の一環として部活動を指導するために必要とされる知識や技能を身に付けてきたこと。指導者と実践者とがコミュニケーション活動を通じ相互理解を深め、互いをリスペクトする関係性を尊重しつつ、実践者の能力を最大限引き出すことに使命感をもっていること。

02 カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教員・社会人としての資質・能力を確実に修得でき、部活動指導者を養成できるプログラム（部活動指導者）を編成する。

1. 発育発達、健康管理などの視点を踏まえ「個」の育成について科学的根拠に基づいて計画的かつ合理的な指導を遂行するために日本スポーツ協会公認コーチングアシスタント対象科目を置き、部活動指導に関する体系的な学びの基礎を築くことを目標とする。このことで、部活動を安全、且つ、効果的に指導するための専門的知識・技能が習得でき、スポーツ及び文化的活動の本来の楽しさを伝えることができる指導力を高める。
2. 部活動は、人間力の向上を目指すことも重要な役割であることから、「部活動論」をプログラムの中核に据え、プレーヤーズファーストの理念、インテグリティ教育について一貫性を持った思考を深められることを目標とする。一方で、部活動は学校教育の一環であることから、教員免許関連科目の学びから、教育者として求められる幅広い教養を身に付け、的確な判断力と豊かな表現力を養う。
3. 将来、幅広く活躍することができる指導者を目指すためにスポーツボランティア論を置く。そのことで、社会や地域と連携を図り、学校教育活動の活性化に繋げるなど、主体的に地域の発展を視野にいたした社会貢献が遂行できる資質を育むことを目標とする。

※本プログラムの修了要件を満たすことにより、（公財）「日本スポーツ協会公認コーチングアシスタント」資格を取得することができる。